



↑保育士の迫真の演技に園児に笑いが溢れる。

七夕に願い事いっぱいしたよ

■牧之原保育園/七夕会

牧之原保育園の七夕会は7月7日、同園ホールで開かれ、園児76人が歌と寸劇を楽しみました。保育士が織姫やひこ星に扮する七夕劇では、七夕の言い伝えをわかりやすく表現。園児は、笑いが詰まった劇に笑い、見入っていました。園には家で作ってきた短冊などを、当日朝、保護者と飾りつけた七夕が飾られていました。短冊には「友だちといっぱい遊べますように」「もっとうまく泳げますように」と願い事がたくさん書かれていました。

季節感溢れるお茶会に満足の笑み

■子どもまきのはら塾/茶道教室

子どもへの学習機会の提供を目的に地域の指導者による「子どもまきのはら塾」の茶道教室（小林由紀子先生）は7月3日、榛原文化センターで開かれ、親子9人が参加しました。参加者は会場となった和室を七夕飾りで飾りつけ、季節感溢れる中、2グループに分かれお茶をたてました。もてなしを受けた子どもは、一つ一つの作法を丁寧に行われたお茶に、時折、満足の笑みを浮かべていました。



↑七夕飾りの下で飲むお茶は格別。

茶葉を手に取る姿は小さな審査員

■一番茶品評会

市認定農業者協議会主催の一番茶品評会は7月23日、さざんかで開かれました。品評会には88点が出品され、JAハイナンや市内の茶商、県経済連が審査をしました。今回の品評会では初めて小学生が招待され、菅山小学校と勝間田小学校の児童30人が参加。児童は、茶葉を手に取って香りを確認し、中には食べてみるなど、審査員気分を楽しみました。その後、インストラクターの指導によりお茶入れを体験し、自ら入れたお茶を味わっていました。



↑茶葉を手に取り確認する児童。



↑救助は1分、1秒を争う。(写真は訓練風景)

正確で素早い消防救助技術を競う

■牧之原市御前崎市広域施設組合消防本部/第39回消防救助技術関東地区指導会

静岡県消防救助技術大会「引揚救助部門」で2位となった牧之原市御前崎市広域施設組合消防本部は7月14日、消防救助技術関東地区指導会（厚木市）に出場しました。同部門は、7m下にいる要救助者を引き上げる救助法を1チーム5人編成で行い、正確さと素早さを競います。今大会では入賞こそ逃しましたが、大会や訓練により培った技術は、牧之原市や御前崎市の生命を守る確かな財産になったことでしょう。



↑待ちに待った静波海水浴場の海開きを楽しむ榛原ふたば幼稚園の園児。

海水浴シーズンがやってきた

■牧之原市海水浴場海開き

静波海岸で6月30日、相良サンビーチで7月1日、海水浴場開場式が執り行われました。開場式には観光協会をはじめとする関係者が出席し、シーズン中の安全と集客を祈願しました。市観光協会の平岡和夫会長は「昨年は長雨と地震の影響により海水浴客が激減してしまいましたが、ことしは磯の状態もいいので期待したい」とあいさつをしました。式典後、静波海水浴場では榛原ふたば幼稚園の園児、相良サンビーチでは相良幼稚園と相良保育園の園児が初泳ぎを楽しみました。波打ち際には、向かってくる波をジャンプしたり、波から逃げようとしたりするたくさんの笑顔が溢れていました。

未来の里山のため引き継ぎたい

■相良小学校/炭焼き体験

相良小学校5年生は7月2日、菅ヶ谷の時ヶ谷桜会（菅沼英喜代表）の協力の下、炭焼きを体験しました。参加した児童は97人。これは、「森を育てる炭作り」を国語の授業で学んでいる中、炭焼きが里山を維持するための重要な役割を担っていることを体験を通じて知ってもらうことが目的。児童は「炭焼きは大切で大変なこと。未来の里山のためみんなで引き継いでいきたい」と大人びた顔つきで話してくれました。



↑一生懸命息を吹きかけ炭焼きの火をおこす児童。



↑人気キャラクターと一緒に花火をする園児。

花火は大人と一緒に、安全に

■相良幼稚園/花火教室

相良幼稚園花火教室は6月29日、同園で牧之原市御前崎市広域施設組合消防本部職員の指導の下開かれました。園児は、職員が用意した紙芝居で、3つの約束事「必ず大人と遊ぶ」「広いところで遊ぶ」「バケツに水を用意して遊ぶ」を覚えてもらい、職員の「守れるかな」という問いに、園児は「はい」と大きな声で返事をしました。紙芝居の後、園児は、人気キャラクターに扮した職員と一緒に花火を楽しみました。

広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報室 ☎(23) 0044 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

